

国語科学習指導案

日 時 平成16年11月10日(水)
学 級 1年4組(男子18名 女子19名 計37名)
指導者 鎌田 久美子

1 単元名 古典と出会う 「竹取物語」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、「竹取物語」「今に生きる言葉」の二つの教材から構成されており、古典を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てることをねらいとして設定されている。

「竹取物語」は、原文と訳文、あらすじ、解説文の三部分から成っている。原文で取り上げられているのは冒頭の章の初めの部分と、「蓬莱の玉の枝」の章の部分である。「蓬莱の玉の枝」は冒険譚であり、生徒が親しみやすい内容である。原文は、簡潔で読みやすい文体であり、音読したり暗唱したりするのに適している。原文と現代語訳を上下に分けた対訳形式となっており、原文と訳文を同時に読むことができるので、初めて古典を学習する一年生にとって抵抗なく古典に親しむことができる。現代文で書かれた物語全体のあらすじ、物語中の三人の貴公子の行動の解説文は、物語の内容を把握しやすく、物語のおもしろさを味わうことができる。また、挿絵も多く掲載されているので、当時の人々の生活様式をうかがい知ることができる。昔の人の生活や考え方などに思いをはせ、自分たちの生活・生き方と結び付けながら興味・関心をもって読み進めていくことができる教材である。

「今に生きる言葉」は、大きく二つに分けられ、前半部分で名句・名言の由来の説明、後半部分で故事成語の説明と具体的な故事の紹介という構成になっている。「矛盾」の故事について漢文の書き下し文と現代語訳の対訳形式となっているので内容をとらえやすく、四コマ漫画も活用しながら楽しく学習することができる。昔の人が実生活の中で生きる知恵として大切にしてきた言葉がそのまま今も用いられていることを知ることによって、昔も今も人間としての共通部分があることに気づき、古典を身近なものとして感じることができるであろう。名句・名言や故事成語について興味・関心を持ち、意欲的に語彙を広げていくことのできる教材である。

(2) 生徒観

生徒は中学校に入って今までに、文学教材にも接し、物語のおもしろさを味わうことにも慣れてきている。本単元に入る前に行ったアンケートによると、文学教材の学習が好きな生徒は76%と多い。朝読書を毎日行っていることもあり読書が好きな生徒も82%と多い。この時期に、文学教材の一面をも有し、新しい領域のものである古典に接することで、生徒は新たな興味・関心をもって学習することができると思われる。生徒は幼いころにたくさんの昔話に親しみ、「かぐや姫」の物語は、ほとんどの生徒が知っている。昔話に対して、「楽しい」「不思議なものがいっぱい」「今のものにはないおもしろさがある」などいいイメージ

をもっている生徒が多いが、中には「つまらない」「長い」「小さい子が読むもの」などいいイメージをもっていない生徒もいる。しかし、本単元で古人の世界を想像しながら古典に親しむことによって、今に語りつがれている昔話のおもしろさに気づくことができると考える。

自由に読むことが好きな生徒が多いが、授業の中で考えることが苦手、難しいと感じ、自分の考えに自信を持ってない生徒もいる。そこで、少人数のグループの中で自分の考えを発表させるなど、生徒が積極的に学習に参加したり、楽しく学習したりできるような工夫をしていきたい

3 「基礎基本の確かな定着」を実現するための指導構想

本校の研究主題を踏まえ、国語科では研究目標を「学び方の基礎・基本を身に付け、進んで文学作品に親しむ生徒の育成」とした。「進んで親しむ」ためには、自分で作品を読み進めていく力が必要であり、興味・関心・意欲の育成も重要である。

古典の文章に親しむ上で、仮名遣い、語句や語彙、係り結びなどの古文の理解に必要な基礎的な事項が理解できること、古文と漢文のもつ独特のリズムを感じて音読できることが、ここでの基礎・基本と考える。この基礎・基本の定着を図る上で、本単元では次のようなことを実践するものとする。

古文・漢文のもつリズムに慣れ、抵抗なく読めるように、多様な音読活動を取り入れる。

古文と漢文の内容をとらえる上で必要な基礎的な事項に関する小テストを行う。

興味・関心に応じて、「竹取物語」をさらに詳しく調べたり、ほかの古典を探して読み広げたりする発展的学習を設定する。

学び合う観点から、交流の場を設ける。

「読む」ことに抵抗を感じている生徒に個別支援を行う。

4 単元の目標

- (1) 古典を学ぶことの意義や楽しさをとらえ、古典の世界を進んで広げようとする態度を養う。 (関心・意欲・態度)
- (2) 古典の文章に表れている内容をとらえ、ものの見方や考え方を、現代の自分たちと重ねながらとらえることができる。 (読む)
- (3) 自分の感想や考えを、相手を意識して話したり、話し手の意図を考えながら内容を聞き取ったりすることができる。 (話す・聞く)
- (4) 古文や漢文特有の表現や語彙、名句・名言、故事成語の知識を獲得することができる。 (言語)

5 単元の指導・評価計画 (12時間扱い：本時 5 / 12時間)

時	学習内容	評価規準					評価方法
		関心意欲態度	話すこと聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	
1	「竹取物語」を通読しあらすじをとらえる。	「竹取物語」を読んで、感想を発表しようとしている			「竹取物語」を読んであらすじをとらえている。		発言 挙手 ワークシート

2	歴史的仮名遣いに留意しながら冒頭文を読む。				歴史的仮名遣いに気をつけながら原文を音読している。	歴史的仮名遣いや「あやしがりて・うつくしうて」の意味を理解している。	観察 音読 ワークシート 小テスト
3	歴史的仮名遣いに留意しながら「くらもちの皇子の話」の原文を読む。				歴史的仮名遣いに気をつけながら原文を音読している。	歴史的仮名遣いや「そばひら・のたまふ」の意味を理解している。	観察 音読 ワークシート 小テスト
4	三人の貴公子の行動や性格の違いを話し合う。		自分の考えを相手を意識して話したり、注意深く聞き取ったりしている。		三人の貴公子の行動や人柄をとらえている。		観察 音読 ワークシート 小テスト
5	教科書に登場しない二人の貴公子や、「竹取物語」のほかの部分について読んで、感想などを発表する。	興味をもった部分をすすんで読み、感想などをまとめて書いている			「竹取物語」のほかの部分の内容をとらえている。		観察 音読 ワークシート 小テスト テスト
6	「昔話」として知っているほかの古典を探して読む。	すすんでほかの古典を探して読もうとしている。			自分が読んだ古典の内容をとらえている。		観察 「古典紹介カード」
7	「今に生きる言葉」の前半部分を読み、名句・名言の由来を辞典などで調べる	中国の古典に由来をもつ言葉に関心を持ち、積極的に調べようとしている。				名句・名言の由来についてとらえている。	観察 ワークシート
8	名句・名言の由来について調べ		調べたことを適切に発			名句・名言の由来につ	観察 小テスト

	たことを発表する。		表したり、注意深く聞き取ったりしている。			いて理解している。	
9	「今に生きる言葉」の後半部分を読み、「矛盾」の書き下し文を読む。				「矛盾」の書き下し文を漢文特有の言葉遣いに気をつけながら音読している。	漢文訓読体特有の言葉遣いや語句の意味について理解している。	観察 音読 小テスト
10 11	名句・名言、故事成語について調べ、好きな方法を選んでまとめる。	すすんで名句・名言、故事成語について調べようとしている。				名句・名言、故事成語について理解している。	観察 音読 ワークシート
12	名句・名言、故事成語についてまとめたものを発表し合う。	発表を聞き、積極的に感想を交流し合おうとしている	調べたことを適切に発表したり、注意深く聞き取ったりしている。				観察 発言

6 本時の指導

(1) 主題 「竹取物語」の世界に親しみ、読み広げる。

(2) 目標 教科書に登場しない二人の貴公子や、「竹取物語」のほかの部分について読んだり、読んでわかったことや感想などをまとめて発表し合ったりできる。

観 点	具 体 の 評 価 規 準		「努力を要する」生徒への具体的な支援
	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	
関心・意欲・態度	自分が選んだ部分をすすんで読み、わかったことや、それに対する自分の考えなどをまとめている。	自分が選んだ部分を読み、わかったことや、それについて思ったことなどを簡単にまとめている。	易しい現代語訳を読ませ、初めて知ったことやおもしろいとおもったことなどをまとめさせる。
読むこと	自分が選んだ部分の場面の様子や人物について、正確にとらえることができている。	自分が選んだ部分の場面の様子や人物について、だいたいの内容をとらえることができている。	易しい現代語訳を読ませ、内容をとらえさせる。

(3) 構想

本時は、教科書に登場しない二人の貴公子や、「竹取物語」のほかの部分の中から、読みたいものを選び、読んでわかったことや感想をまとめ、発表する活動を行う。

「竹取物語」の教科書に載っていない部分から、生徒が興味をもった部分の資料をあらかじめ用意しておき、その中から読みたい場面を選ばせるようにさせる。

自分が選んだ場面について自分なりに読み取ったうえで、グループの中で感想などを発表し合う活動を取り入れ、考えを深めさせたい。読んでわかったことや感想をグループごとにまとめたものを発表させることによって、発言することに自信がもてない生徒でも抵抗なく発表できるようにさせたい。また、各グループの発表をしっかりと聞かせ、「竹取物語」のほかの部分についても興味・関心をもたせたい。

(4) 展開

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	学 習 形 態
導 入 5 分	1 原文の音読をする。	・ 古文のリズムを味わいながら読むことを意識させる。	一斉・個
	2 古文の特徴についての復習をする	・ 小テストを行う。結果は自己評価カードに書かせる。	個・一斉
	3 学習課題を確認する。 「竹取物語」のほかの部分を読んで、わかったことや感想を発表し合おう。		
展 開 40 分	4 自分が選んだ「竹取物語」のほかの部分について読み、わかったことや感想などを書く。	・ 原文を現代語訳と対応させながら読ませたり、あらすじを読ませたりして、わかったことや感想などを書かせる。	個
	5 同じ部分を選んだ人とグループで感想を交流し合う。	・ グループの中で感想を発表し合い、考えを深めさせる。 ・ グループごとにわかったことや感想などをまとめさせる。 ・ 感想が一つにまとめられない場合は箇条書きにさせる。	グループ交流
	6 グループごとに、読んだ場面についてわかったことや感想などを発表する。	・ 聞き手を意識させ、わかりやすく発表させる。	一斉交流

終 末	7 グループごとの発表を聞いて、興味・関心をもった部分について聞きたいことがあったら質問する。	・発表を聞いて、興味・関心をもった部分について挙手させる。	一斉
5 分	8 今日の学習を振り返り、自己評価をする。次時の予告を聞く。		個